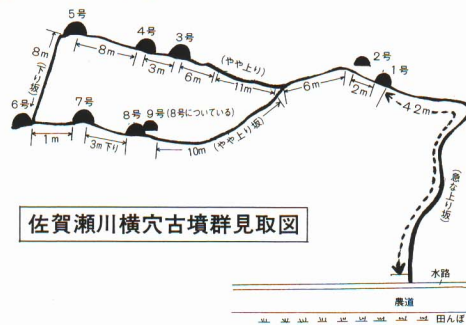




横穴古墳 1号墳(右)と2号墳(左)



吹上の円墳



佐賀瀬川横穴古墳群見取図

吹上の円墳

所在地 新鶴村大字佐賀瀬川字峯山五〇〇三
所有者 新鶴村

会津盆地周囲の山頂から丘陵にかけて、数多くの古墳が点在している。古墳造営の始りは弥生時代後半頃（三世紀）よりと言われ、稲作の伝播と共に貧富の差が生じて階級社会の成立となり、その族長は大和朝廷との密接な関係を保ち、その庇護のもとに地方の王者となつて、一般民衆を支配し、数多くの人々を役使して、その威容を示すために墳墓を築いた。

会津に於ては、会津坂下町の杵ヶ森古墳（弥生時代後期）を始め、大和時代前期と言われる堂ヶ作古墳や中期頃の大家山古墳（会津若松市）等がある。

その後、古墳時代前期（四〜五世紀）に入つて大型古墳の出現となり、鎮守ヶ森や亀ヶ森古墳（会津坂下町）のような東北地方第二の前方後円墳が築かれるようになった。

古墳時代後期（六〜七世紀頃）になると、再び小型化して大きな古墳は見られないようになった。

新鶴村では、佐賀瀬川から長尾原、根岸、米沢にかけての一带に、佐賀瀬川横穴古墳群、根岸四八壇古墳群、米沢五つ壇古墳群等横穴古墳群や多くの円墳群が知られていた。しかし、開墾によつて、今では円墳のほとんどが失われている。

吹上公園にある円墳は、周溝は失われているが、崩れを防ぐため周囲を石で囲つてあり、よく保存されている。

直径九、二メートル、高さ一、八五メートルの大きさで、古墳時代後期のものである。